

百日咳診断に係る検査方法

- 主に、「菌培養検査」「遺伝子検査」「血清学的検査」
+ 「抗原定性検査（new）」

～近年の検査方法の動向～

- 2016年10月⇒IgA と IgM 抗体を測定する百日咳抗体測定キットが体外診断薬として健康保険適応
- 2016年11月⇒百日咳菌 LAMP 法が健康保険適応
- 2021年5月⇒百日咳菌抗原定性キットが健康保険適応

参考：厚労省 百日せきワクチン ファクトシート

厚労省 検査料の点数の取扱いについて(令和3年4月30日)

百日咳診断に係る検査方法（血清学的検査）

～抗PT IgG法～

- 届出基準
- ① 単血清：100 EU/mL以上
 - ② ペア血清：抗体価の有意上昇
 - <10 EU/mL → ≥10 EU/mL
 - 10 - <100 EU/mL → 2倍以上の上昇

ワクチン効果との鑑別に注意



検査結果が誤解を招く表記になっている点に注意

検査項目	成績	単位	基準
百日咳菌抗体			
PT-IgG	H 50	EU/mL	10 未満
FHA-IgG	H 63	EU/mL	10 未満

他に、抗百日咳菌IgA、IgM法がある。
⇒メーカーのプレスリリースによると、「ワクチンの影響を受けない」とのこと。

- 「基準値：10 EU/ml未満」としている検査会社が多い
- ワクチン未接種未感染の場合、**10 EU/ml以上でワクチン免疫による防御レベル**が得られたと判断する

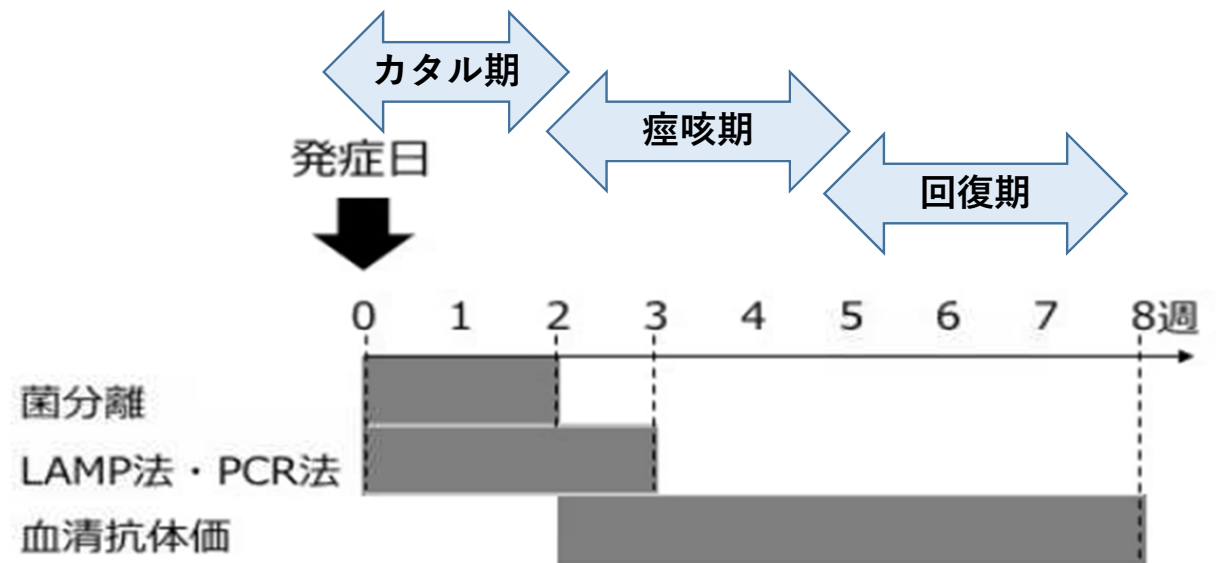
百日咳診断時に役立つ資料等

感染症法に基づく医師届出ガイドライン

(第二版)

百日咳

～病期ごとに推奨される検査方法～



令和 3 年 12 月 28 日

国立感染症研究所

■ 検査実施推奨期間*

引用：国立感染症研究所 感染症法に基づく医師届出ガイドライン (第二版) 百日咳

積極的疫学調査について

○医療機関への聞き取り

【聞き取り内容】

- ・ 確定患者との接触の有無
 - ・ 症状（カタル症状の有無等）
 - ・ 診断方法
 - ・ 治療内容
 - ・ 感染危険期間の接触者の有無（家族、職場、学校等）
 - ・ ハイリスク（乳児や新生児）との接触の有無
- ハイリスク者と接触があった場合には、カタル症状出現時抗菌薬の内服をすることによって咳嗽予防に効果があることなどを患者へ情報提供をお願いします。